

体験型安全教育の実施

<教育目的>

- ・危険に対する感受性の向上
- ・設備管理/保全方法の習得
- ・技術伝承

<方法>

過去の事件事例等を参考に作成した体験型の実験装置と座学用資料を用いて、誤った取扱いをした場合の危険を実体験したり、事故原因となった現象を原理原則から学習する。

《 体験学習風景 》



小型の体験装置を使用し、危険な状態を再現し、危険性を認識してもらう。



設備のカットモデル・図面を利用して内部構造を理解すると共に、取扱い上の重要ポイント、設備管理/保全方法を習得し、設備の安全・安定運用に生かす。

≪ 座学風景 ≫



16テーマのテキストは、理解しやすいように、出来るだけ図・写真・グラフなどを多用し作成。

また、テーマに関連した事故事例も記載し、危険性を再認識してもらう。

講師には、経験豊富な上司を採用し、実体験のエピソードなども加えた講義としている。